

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横須賀火力発電所1、2号機タービン建屋	階数	地上4F
建設地	横須賀市久里浜9丁目2260番3ほか8筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2019年4月25日
敷地面積	287,228 m ²	作成者	三菱日立パワーシステムズ株式会社土木建築技術部長崎事務所
建築面積	8,704 m ²	確認日	2019年4月26日
延床面積	27,320 m ²	確認者	三菱日立パワーシステムズ株式会社土木建築技術部長崎事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.6)

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.0)

Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア= 3.6)

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.7)

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.0)

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.2)

3 設計上の配慮事項	
総合 既存の地形を維持しつつ、工事により発生する残土を盛土として使用し、敷地南側に新たな緑地を確保する計画である。敷地の一部が第1種住居地域と隣接するが、その近隣には新たな建物は建設せず、十分な離隔を確保する計画とし、ゆとりのある空間を創出する。	その他 特に無し。
Q1 室内環境 (室内環境を快適・健康・安心にする) 外壁、屋根裏の断熱材設置等により空調負荷の低減に配慮している。事務エリアと工場エリアとのゾーニングを明確に行っており、サッシ開口を極力設けている。内装はすべてF☆☆☆☆とする。	Q2 サービス性能 (長く使い続ける) 地盤調査に基づく安全な基礎方式と基礎形状の検討を実施している。外装材や空調配管等、耐用性・メンテナンス性を配慮する。
LR1 エネルギー (エネルギーと水を大切に使う) 高効率機器、LED照明の採用で設備システムの高効率化を図っている。感知フラッシュバルブ、自動水栓を採用し水資源保護に配慮している。	LR2 資源・マテリアル (資源を大切に使いゴミを減らす) 汎用性の高い材料と効率よい材料をバランスよく採用する。
Q3 室外環境(敷地内) (街並みを豊かにする) 建築物のベースカラーは1~2色とし統一感を図る。爽やかな臨港地区のイメージを踏襲してベースカラーをオフホワイト系、アクセントカラーを寒色系とする。屋根は折反屋根を使用し、周囲の工業地域との調和を図る。既存を逸脱したデザインとならないように配慮する。	LR3 敷地外環境 (周辺環境に配慮する) 主要な建物等の色彩等は、ベースカラーをオフホワイト系、アクセントカラーを寒色系とすることにより、周辺自然景観色及び周辺景観との調和に配慮する計画とする。色彩により建物等の分節化を行い、視覚的な平面を削減することで圧迫感を抑え、近景における視覚的影響を低減する。既存緑地は消失する部分もあるが、代替でまとまった広い緑地を確保し、既設建物除却後の敷地空地は緑化を行い、緑豊かな空間を創出する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される